

2002年（平成14年）

- ・第4回札幌くらぶコンサート開催
- ・新会長に上田文雄氏
- ・山本直純さんご逝去
- ・2回の練習見学会を実施
- ・仙台フィルハーモニークラブと初の交流会

第4回札幌くらぶコンサート開催

4回目を迎えた札幌くらぶコンサートが4月27日、キタラ大ホールで開催されました。今回の指揮者は、「題名のない音楽会」などでお馴染みの東京交響楽団指揮者飯森範親さんです。若手人気指揮者の登場とあって、会場は9割方埋まり、人気の高さを証明した形でした。



札幌くらぶコンサート交流会（中央は飯森範親さん）

毎年人気の「指揮者にチャレンジ」のコーナーは、クラシックファンなら誰でも一度はやってみたいと思うベートーヴェン交響曲第5番「運命」です。登場したチビッコが固まってしまい、指揮棒を振り下ろせないなどのハプニングもあり、会場は大爆笑となりましたが、飯森さんの巧みなリードでスムーズに進行しました。

メインは、前年のアンケートでナンバーワンとなったベートーヴェン交響曲第6番「田園」でした。根強い人気の曲で、多くの聴衆も満足したようでした。

恒例となった終演後の交流会は、レストランキタラで開催されました。多くの会員・楽員が出席し、いつも以上に賑やかな会となりました。歓談中、飯森さんがマイクに立たれ「世界中のオーケストラが若い聴衆の掘り起こしに苦慮しているなか、このようなコンサートがこんな素晴らしいホールで開催され、本当に札幌が羨ましい」と述べられました。

新会長に上田文雄氏

平成14年度の総会は5月29日に、初めて豊平館を会場として行われました。

この年は2年に1度の役員改選の年に当たっていましたが、3月末に山科俊郎会長が一身上の都合で会長辞任を申し出られ、新会長の選出が行われました。その結果、事務局長の上田文雄が第2代会長として選出されました。その他、総会で選出が定められている会計監査には新たに細川馨、佐藤慶一が選出され、会長指名の事務局長には西川吉武が就任しました。

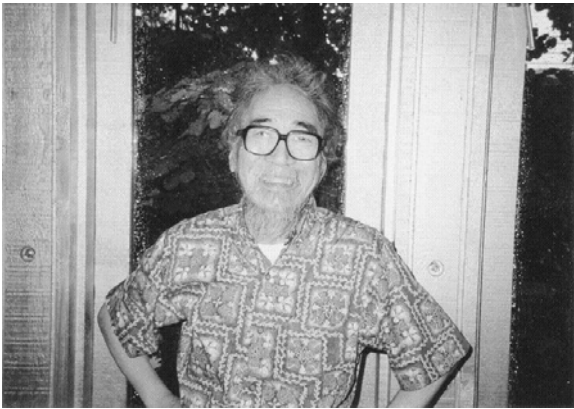
総会終了後、ほとんどの出席者はキタラに向い、山本直純さん指揮の名曲シリーズを聴きました。残念なことに、それが直純さんの公開の最後のステージとなってしまふことなど予想もできないことでした。

山本直純さんご逝去

映画「男はつらいよ」の音楽やテレビの「オーケストラがやってきた」そして「大きいことはいいことだ」のコマーシャルで国民的な

人気を得て、何よりも札幌と深い関係のあった、作曲家・指揮者の山本直純さんが6月18日に急性心不全のためにお亡くなりになりました。69歳でした。

誰からも「直純さん」の呼び方で親しまれましたが、札幌とのかかわりは予想以上に長く深いものでした。らぶでは「札幌くらぶ」第14号の「指揮者にきく」のコーナーのために2000(平成12)年9月1日にインタビューしていましたが、その時はお元気で、札幌とのかかわりについて「斎藤秀雄先生に言われて、札幌がアマチュアオケの時代から指揮に来ていました。その後にはできた札幌とも草創期からのお付き合い」と述べておられました。



山本直純さん(芸森前カフェフェルマータにて)

直純さんから見た、現在の札幌については「一言で言えば雲泥の差。多くの指揮者達がほめる言葉を聞き、草創期から知っている私としては、よくぞここまで来た、本当にうれしい限り」とも述べられました。また、札幌くらぶの活動については「多言を要しない。拍手喝采、ただその一言です」とおっしゃっていました。

「札幌くらぶ」では、第22号を「直純さん追悼特集号」とし、親交のあった竹津宜男さんや楽員さん、そして上田会長の追悼の言葉を集めました。

竹津さんは5月29日の総会の前にお会いになり、「札幌くらぶのために俺にできること例えば顧問になるとか」という言葉を聞き、総会に伝えますと答えていたそうです。その話

を聞いた上田会長は演奏会後挨拶に伺い、「よろしく」と伝え、特集に「幻の札幌くらぶ顧問」の一文を寄せられました。

2回の練習見学会

これも恒例となった練習見学会が、この年は札幌と尾高さんのご理解により、9月8日と10月5日の2回、芸術の森アートホールで行われました。尾高さんとしては初の挑戦となる「ベートーヴェン・チクルス」の練習でした。1回目84人、2回目95人の申込みがあり、多くの会員が熱心に見学しました。

仙台フィルハーモニークラブを迎える

ファンクラブ同士の交流会は札幌くらぶの活動の一つの夢でした。その夢が実現しました。12月14日の札幌定期演奏会を聴きに、仙台フィルハーモニークラブ(SPC)の一行10人が来札しました。

SPCとは、会報の「ファンクラブの和」への掲載がきっかけとなり、互いの会報を交換し合うなどの交流が続いていました。そんななか、SPCにも札幌くらぶと同じく、両クラブの交流会を行いたいとの希望があり、また、ぜひキタラを見学・体験したいという思いもあり、交流会開催が決まりました。

一行は第452回定期演奏会を堪能し、交流会に臨みました。交流会には双方の会員だけではなく、尾高さんご夫妻や多くの楽員さんも参加してくれ、異例の11時までという会が和やかに行われ、札幌くらぶとしては正に記念すべき一夜となりました。

◎この年「札幌くらぶ」に登場した人
小山実稚恵(ピアニスト)
西本智実(ロシア・ボリショイ響首席)
田島高宏(札幌コンサートマスター)
藤澤光雄(Cb)、夏山朋子(Fg)
井上澄子(Vn)、島方晴康(Hn)
高井 明(Ob)、石川希峰(Vn)
高橋聖純(Fl)、坂菜々子(Vc)